

問 こども食堂の現状と拡充の取り組みはどうか。

答 市内におけるこども食堂は、継続的開設が4カ所、期間限定が1カ所。民間による開設を期待している。

道路陥没防止対策について

問 陥没時の体制、新技術による対応はどうか。

答 巡回パトロールをはじめ、緊急補修用の舗装剤も積んでいる。旧下水管が埋設された路面下の探査を実施している。

教育行政について

問 学校での心肺蘇生の救命教育の現状はどうか。

答 AEDの使用も含む心肺蘇生等の実施について指導している。これまで9割以上の学校で教職員を対象に実施している。今年度中に全ての学校で実施する。

問 ラインを活用したいじめ相談体制の構築をどう考えるか。

答 県内ではラインを活用したものは無い。体制の整備を課題とする。

中、国や県の動向を注視しながら対応したいと考える。

幼児教育無償化について

問 国では幼児教育の無償化について議論している。幼児教育の費用について国の算定と市の決定には差があるのか。

答 国の定める基準を最高額として、市は国より細かい階層区分を設けることで軽減を図っている。

医療的ケア児について

問 医療的ケアが必要な子どもの現状と対応についてはどうか。

答 市内には就学前の乳幼児、就学後の児童生徒の子どもは数名いる。入所相談があれば集団保育で受け入れが可能か、看護師の確保が必要か、その都度検討したい。

サポステについて

問 サポステにどのような支援をしているか。

答 登録から約6カ月間、コミュニ

ケーションスキルや、日常生活向上などにつながるプログラムの支援を行っている。



三条地域若者サポートステーション

スポーツで地域の魅力発信について

問 4月に下田地域でスポーツの全国大会が2つ予定されている。この機会に地域の魅力発信と若者の関わりをどのように進めるのか。

答 スカイレースとワイルドウォーターカヌー大会の両大会に地元の小中学生や若者に対して、協議会への参加や大会のボランティアを募っている。

除雪について

問 国道、県道も一元化し三条市で除雪したらどうか。

答 国道、県道も一元化し三条市で除雪したらどうか。介護施設など緊急車両の出入りなど福祉の観点から、施設の前面道路が市道でなくても除雪すべきではないか。建設課での電話対応の体制は見直すべきではないか。

問 今回の雪害について

答 雪害に関して市民の忌憚のない不安と・不満の声はどのような内容か。

答 「除雪されていない」「除雪が下手くそ」「雪の塊が路上に残されている」「庄雪と、でこぼこ道で車の通行ができない」等々。



問 大雪対応の問題点は。大綱質疑で答えた通り。

問 最高責任者の市長が不在で不具合は無かったのか。

答 無かった。

問 「欧州出張」は適切な価値判断であったか。

答 不適切とは考えていない。

問 国道・県道・市道と行政同士の連携に課題は無かったか。

答 今後の課題と考える。

「広報さんじょう」に関して

問 費用対効果はどのように考えるか。適正と考える。

問 12月16日号の表紙に問題は無いのか。問題はない。

三条市の「財政健全化」の現状と3年後の読みは

問 基礎的財政収支は黒字か赤字か。基礎的財政収支は黒字。

三条市の財政健全化について

問 三条市の予算の執行状況や財政状況の公開はどうか。

答 内容や手法については、市民の理解を得られるよう引き続き取り組んでいきたい。

問 社会保障費の負担増等将来に対する不安もあるが、将来に対する展望はどうか。

答 中長期的な財政の見通しを立てた中で、財政指標の推移等に注視しながらしっかりとコントロールを続けることにより、健全財政を堅持していきたい。

特別な支援が必要な子どもの現状について

問 子どもの総数は減少しているが、特別な支援が必要な子どもの数は増加傾向にある。早期発見としての気づき事業が一番大事だと思うがどうなっているのか。

答 乳児期から3歳までの4つの健診において保健師等による問診や医師の診察により判断し、その結果に応じて医療機関の受診や福祉サービスの利用を勧めている。

三条市における観光施策について

問 東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えている中、国、県としても現在さまざまな観光施策を打ち出し、地域の強みを生かした広域連携型の観光を推し進めているところである。三条市としては観光客の受け入れ態勢を含め、観光分野の広域連携をどのように図っていくのか伺う。

答 広域連携をしっかりと図りながら今後検討していく。

燕三条駅を中心とした須頃地区の整備について

問 須頃地区においては、今後県央基幹病院、実学系ものづくり大学、医療系高等教育機関の開学等大きな事業が展開される中、燕三条駅から病院や学校まで多くの患者や生徒が歩いて通うことになる予想される。今後、三条市として歩道の整備や空いた土地の有効利用などJRや燕市、関係団体等と環境整備につ

耳の間こえを助けるヒアリンググループを設置して！

問 市民窓口や公共施設に耳の間こえを助けるため、ヒアリンググループを設置してはどうか。

答 福祉課には手話通訳を配置しており導入は考えない。

経済的事情で進学断念することのないよう奨学金制度を広げて！

問 奨学金は7割以上の人が返還に不安を抱いている。市の制度には返還免除規定があり、人口流出抑制にもなる。学生にも市にも効果がある。拡充できないか。

答 奨学金をベースにしている中で、拡充すると基金の取り崩しを早めることになる。拡充はしない。